

東京大学教養学部 主題科目 全学自由研究ゼミナール

こまとちゃんゼミナール

～ 駒場図書館で学ぶ大学生の為の情報検索・収集・発信スキル

2022年度Aセメスター 成果発表冊子

# 「こまとちゃんゼミナール」 2022年度Aセメスター 成果発表冊子

## 目次

「こまとちゃんゼミナール」とは？ / 本冊子について	1
2022年度Aセメスター 授業プログラム	2
展示会場風景	3
<hr/>	
アイドルと日本	4
サッカー	9
トリックアート～科学と芸術の側面から考えてみよう～	12

# 「こまとちゃんゼミナール」とは？

「こまとちゃんゼミナール～駒場図書館で学ぶ大学生の為の情報検索・収集・発信スキル」は、教養学部生のホームライブラリーである駒場図書館を活用しながら、大学での学習、研究はもちろん社会に出てからも役に立つ情報の検索収集、そして活用の技術を身に付けるための授業です。駒場図書館、総合図書館、そして情報基盤課学術情報チーム等、多くの方々の協力のもとに実施されております。

学期の後半では情報活用・発信実習として、また図書館と学生の協働の試みとして、駒場図書館の展示スペースをお借りして、展示企画の制作を行っています。

## 参考URL

<http://www.sr.komex.c.u-tokyo.ac.jp/courses/library/>

## 本冊子について

本冊子は、2022年度Aセメスター授業の成果発表として、東京大学駒場図書館にて2023年1月12日から2月2日まで開催されたパネル展示の内容をまとめたものです。チーム毎にテーマを設定し、駒場図書館所蔵資料を中心に関連する資料を収集して、紹介文の執筆、展示パネルの作成を行いました。テーマは受講生の関心に沿って多岐にわたっています。駒場図書館の所蔵資料について知るのはもちろんのこと、図書館と学生の協働について考える機会となれば幸いです。

展示および冊子作成にあたり、書影等の使用については許可を得ています。また展示会の実施および準備には駒場図書館、総合図書館の皆様にも多大なご協力をいただきました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

担当教員 山上揚平

# 2022年度Aセメスター 授業プログラム

回・日程	内容
第1回 (10/6)	ガイダンスと導入講義 (オンライン)
第2回 (10/13)	図書館の資料を知る
第3回 (10/20)	図書・雑誌の探し方
第4回 (10/27)	データベースの活用① (講義)
第5回 (11/3)	データベースの活用② (実習)
第6回 (11/10)	レファレンスサービスについて (講義、ワークショップ)
第7回 (11/24)	資料の探し方総括 (講義、チーム・プレゼンテーション)
第8回 (12/1)	駒場図書館バックヤードツアー
第9回 (12/8)	情報活用・発信実習① (チーム決め、テーマ設定)
第10回 (12/15)	総合図書館 (本郷) ツアー
第11回 (12/22)	情報活用・発信実習② (展示に向けた準備作業)
第12回 (1/5)	情報活用・発信実習③ (パネル制作)
第13回 (1/12)	情報活用・発信実習④ (最終プレゼンテーション、展示会場設営作業)

# 展示会場風景



# アイドルと日本

チーム・MISTY

増田大輝・飯田悠貴・佐々木美奈・高橋雅宏・吉川真矢

古くは1960年代から、21世紀に入ってから  
はよりいっそう、アイドルは日本人を魅了し  
てきました。アイドルたちの歌やファッション  
は数々の流行を生み出しており、アイドル  
は日本にとってなくてはならない存在になっ  
たともいえるでしょう。

本展示では、アイドルを入り口として、日  
本の社会や文化の変化、また人々の性意識の  
変化を観察した書籍をご紹介します。アイド  
ルが持つ無限の可能性をご覧ください。

## 1. アイドルとセクシュアリティ

『アイドルについて葛藤しながら考えてみた ジェンダー/パーソ  
ナリティ/<推し>』

『アイドルスタディーズ』

## 2. アイドルは社会を映す

『アイドル進化論』

『推し、燃ゆ』

## 3. アイドルの変遷

『ニッポン男性アイドル史 一九六〇-二〇一〇年代』

『ジャニーズと日本』

## 4. アイドル研究の可能性

『アイドル論の教科書』

『アイドル/メディア論講義』

香月孝史、上岡磨奈、中村香住編著  
筒井晴香、いなだ易、DJ泡沫、金巻ともこ、  
田島悠来、松本友也著

『アイドルについて葛藤しながら  
考えてみた ジェンダー/  
パーソナリティ/<推し>』

青弓社、2022年

草創期から現在まで、アイドルは数多くの人々に憧れを与え、勇気を与えてきた。しかしながら、「恋愛禁止」制度や「卒業」制度など、アイドルには数多くの構造的な問題が付きまとう。この本では、アイドルとして生きる人々に抑圧を強いている様々な問題を照らし出しつつも、アイドルたちが放つメッセージや可能性に光を当てる。そして、この本はアイドルへの愛ゆえに葛藤する9人の論者による多様な視点からの、盲目的な肯定でも乱暴な否定でもないアイドルの考察を目標としている。

一例をあげると、女性アイドルグループの「恋愛禁止」制度は、アイドルたちの清純なイメージを守るための企業戦略といえるだろう。そしてこの制度は、アイドル個人のプライベートに立ち入って人権を侵害している点において抑圧的だ。しかし、フェミニズムの視点に立ってみると、そこにはアイドル業界、ひいては日本社会全体に横たわる問題が見えてくる。

ジェンダー・エイジズム・ルッキズムなど、これからの世界の常識となるだろう概念を非常にわかりやすく学べる一冊。そして、本書の各章には明確な結論が示されていない。葛藤すべきは読者であり、あなたなのだ。(高橋)

アイドルについて  
葛藤しながら  
考えてみた

ジェンダー/  
パーソナリティ/  
(推し)

香月孝史  
上岡磨奈  
中村香住  
編著  
筒井晴香  
いなだ易  
DJ泡沫  
金巻ともこ  
田島悠来  
松本友也



著:田島悠来, 上岡磨奈, 石井純哉, 香月  
孝史, 青田麻未, 関根禎嘉, 大尾侑子, 陳  
怡禎, 松本友也, 中村香住

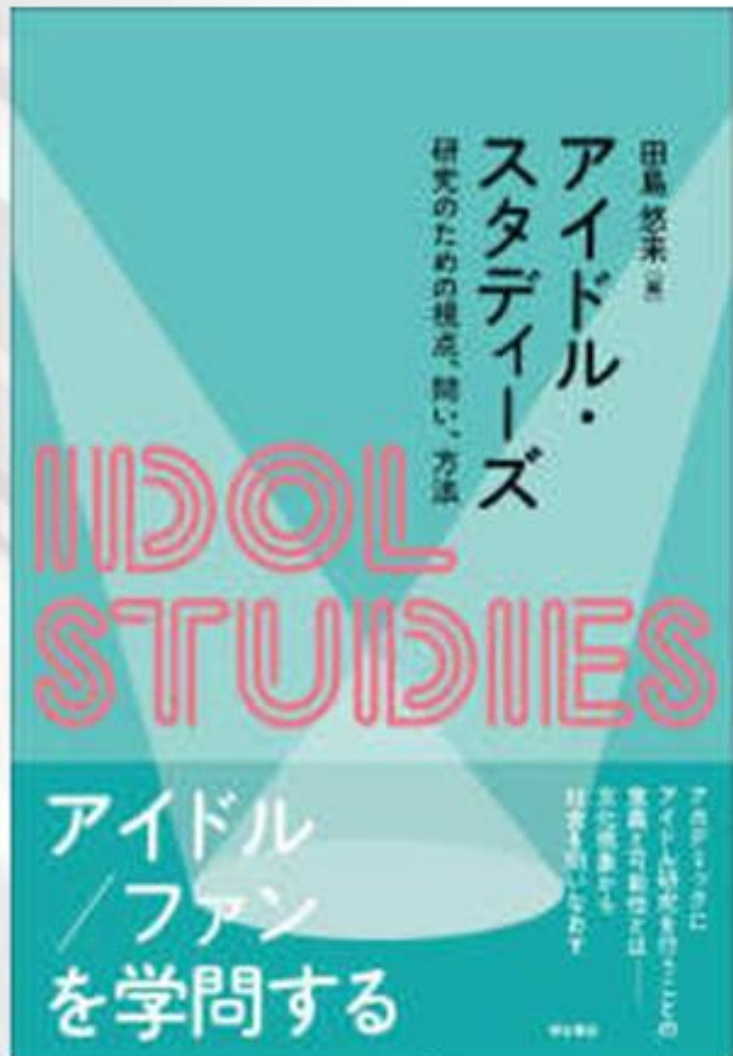
編: 田島悠来

『アイドル・スタディーズ:研究のための  
視点、問い、方法』

これまでのアイドルを巡る労働に関する議論では、当事者であるアイドルの視点が看過されがちであった。ここでは、A.R.ホックシールドの「感情労働」という、場面に応じてその都度働く感情規制が商業的に働くという概念を用いることで、アイドルに感情労働が要請される仕組みについて議論される。

第二部ではアイドルのジェンダー、セクシュアリティに着目している。ここではアイドルプロデューサー、アイドル自身などの送り手側に注目しつつアイドルの恋愛禁止をジェンダー、セクシュアリティのステレオタイプによりアイドルというジャンルで内面化されてきたという分析をおこなっている。また、男装アイドルに注目し、アイドルと異性装という新鮮なトピックを取り扱っている。

この本は第一章で、アイドルに関するこれまでの学術的研究の概論が述べられており、加えて、各章の初めには先行研究が書かれており、参考文献が豊富である。アイドルの研究のバイブルとしてとても有用である。(増田)





太田省一

『アイドル進化論—南沙織から初音ミク、AKB48まで』

筑摩書房、2011年

日本には「推しの文化」と呼ばれる独特な側面がある。当書は、こうした「非実力派」であるはずのアイドルに夢中になりあらゆるものを彼らのために差し出すという一風変わった状況を果たして進化と言うべきか退化と言うべきか、もしくはそのどちらでもないのかをアイドルの歴史を迫りかけつつ考える。

歌手に始まりアイドルと呼んでもよいのかどうかという曖昧な概念だった存在から、アイドルはどんどん自立しその存在を確立させていく。アイドルとオタクの双方に様々な変化が現れる中、ジャニーズやモーニング娘。など今も語り継がれる存在や、アイドル歌手の終わりを告げるかのようなグラビアアイドルなどのセクシャルなアイドルが登場するなど、画期的な変化も現れる。

当書は、1970年代から2000年代への時間旅行をすることで、アイドル文化を現在のアイドルへの視点を持ちつつ見つめ直している。序章をふまえて時間旅行がはじまり論理的な構成で描かれており読みやすい一冊となっています。（佐々木）



宇佐見りん『推し、燃ゆ』

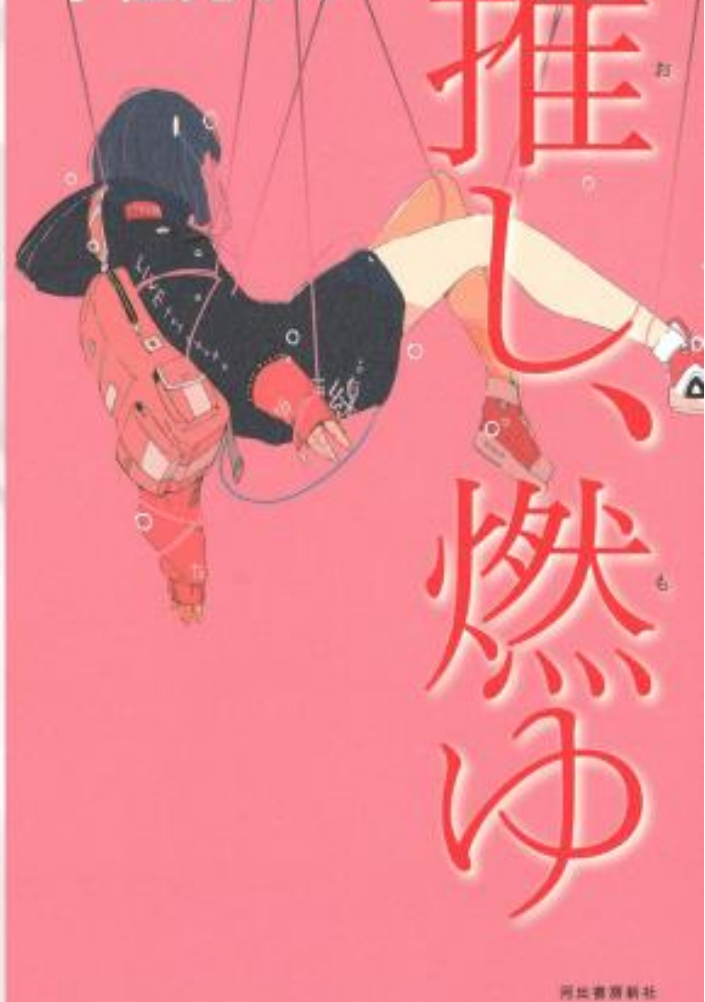
河出書房新社、2020年

芥川賞を受賞したこの作品は東京大学図書館には所蔵されていませんが、タイトルは知っている、または読んだことがあるという人も少なくないのではないでしょうか。著者である宇佐見りんさんは受賞当時現役大学生、21歳だったということにも驚きです。

主人公のあかりには1年前から推している男性アイドルがいます。ある日彼がファンを殴って炎上したシーンから物語が始まります。なぜ殴ったのか、相手は誰なのか、真相が分からず離れていくファンや過激な書き込みをするアンチのいる中でも、「推し」に全てを捧げるあかりの生活は変わることなく続いていきます。

他人にすがる自立して生きることが求められる社会で、それでも自分一人ではどうしても前に進めないときがある。バイトや家族関係などでうまくいかない自分に生きづらさを感じていたあかりにとって、推しは心のよりどころであり、推しを推すことが生きづらさを凌いで前に進む手段にもなっていました。推しとの出会いの時に抱いた感情を「痛み」と表現したり、推しを推すことを自分の生活の「中心っていうか、背骨」という言葉で表すなど、文中には印象的な表現がたくさん出てきます。そのように全てを捧げた推しがいつかなくなったら、ファンはどう生きていけばいいのか。人間臭さを感じるラストにも注目です。（飯田）

宇佐見りん



# 太田省一『ニッポン男性アイドル史 一九六〇-二〇一〇年代』

青弓社、2021年

国民的スターとして絶大な人気を誇っている嵐やSMAPをはじめ、若男女問わず幅広い世代に受け入れられてきた男性アイドル。今では歌番組に限らずドラマやバラエティ番組などでもその姿を目にしないう日はありません。では、日本でアイドルという存在が意識されはじめたのはいつだったのでしょうか？この本の著者は1960年代に封切られたビートルズ主演映画の日本語版のタイトルが「ヘルプ！4人はアイドル」だったことをあげ、ビートルズの来日が一つの転機になったのだと述べます。

著者で社会学者の太田省一さんは東京大学の大学院で研究していた経歴があり、テレビと日本社会の関係を研究のメインテーマとしながら芸能界全般の話題について執筆活動を行っています。本書では男性アイドル界で圧倒的存在感を放つジャニーズを軸に、俳優やバンドが持つアイドル的な側面など幅広い視点から日本の男性アイドルの歴史を分析しています。「王子様」と「不良」の二大タイプが確立され速い憧れの存在であったアイドルが「普通」の側面を併せ持つことでより親しまれる存在に変わっていく様子が、社会情勢との関係やプロモーション戦略の変遷などと絡めて分かるようになっていきます。最近のアイドルからフォーリーブスやたのきんトリオといった懐かしいアイドルも出てくるので、親子で読んでも楽しい一冊です。（飯田）

太田省一



# ニッポン 男性アイドル史 一九六〇-二〇一〇年代

男性アイドルとして存在感を放つジャニーズを軸に、歌手だけでなく、俳優、バンド、ダンスグループのアイドル的な側面にも光を当て、単発的な存在であるがゆえの成長する魅力で私たちを引き付けてやまない男性アイドルの歴史を、戦後の日本社会やメディア文化との関係から紐き出す。



青弓社

# 矢野利裕 『ジャニーズと日本』

講談社現代新書、2017年

テレビをつけても、ネットニュースを漁っても、人気の音楽を探してみても、ジャニーズ事務所のグループやアイドルの名前を見ない日はもはやないだろう。また、2016年のSMAP解散騒動や、2020年いっぱいでの嵐の活動休止は、ファンのみならず多くの日本国民に衝撃をもたらした。このように、ジャニーズはこの半世紀様々な流行を生み出すとともに、私たちの生活に深く浸透してきた。本著は、ジャニーズを一アイドル事務所としてのみならず、戦後日本の在り方に大きくかかわってきた巨大カルチャーとして捉え、日本文化全体についても議論を進めていく。

ジャニーズ創始者のジャニー喜多川氏は生粋のアメリカ人であり、草創期のジャニーズはアメリカの華やかなエンターテインメントの影響を受け、従来にはない「歌って踊れる」アイドル像を創造してきた。しかしながら、現代のジャニーズ楽曲にはアメリカ的表現のみならず、ジャパニズム的精神がくみ取れる表現やジャニーズ独自の表現が多くみられる。その背景には、日本国民が敗戦やアメリカの占領から前を向き、日本人としての誇りを取り戻していく姿があると著者は述べる。すなわち、ジャニーズは戦後文化史においても、戦後思想史においても最重要の存在であり続けるのだと。

あらゆる人にとって斬新な視点が多く含まれており、とてもワクワクしながら読み進められる一冊。ジャニーズから日本を学ぼう。（高橋）

# ジャニーズと日本 矢野利裕



講談社現代新書

2402

# 塚田修一、松田聡平 『アイドル論の教科書』

青弓社、2016年

この本は日本のアイドルの学術的研究の入門書である。内容はだまかに「文系編」と「理系編」の2つに分けることができる。著者二人はそれぞれの専門とする方を書いている。

文系編では例として、「かわいい」という言葉について論考される。この章では、「かわいい」の起源を「枕草子」にまでさかのぼる。そして、ソーシャルの「言語論的展開」が登場して、日本のアイドルの分析が行われる。

理系編では、アイドルが数理的に論考されている。例えば、AKB48の握手会会場で、一定時間内に、総てのメンバーを回すにはどのような順で回ればよいかという問題を、離散数学の巡回セールスマン問題として考えている。抽象的で難解な数学理論が握手会という場に結びつけられるのは驚愕である。

我々は、「枕草子」や、ソーシャルの言語学理論、数学と聞くと、襟を正すような気分になるが、本書は、そのような学術的な概念を用いて、そういったものと一見無関係であるようなアイドルというものを他では見られないような深さで論じていて、とても興味深く、日本のアイドルと学術的概念の両方に改めて興味をそそられるようになってしまう本である。(増田)



# 西兼志 『アイドル/メディア論講義』

東京大学出版会、2017年

本著は、マスメディアの構造や歴史などを研究するメディア論について、アイドルというとても身近なキャラクターを入り口に紹介していく本である。非常に多種多様な視点からアイドル・メディアを考察するとともに、山口百恵・松田聖子・おニャン子クラブ・モーニング娘。・ももいろクローバーZやAKBグループなどを例に挙げ、メディアの変化とアイドルの変化の関係性を鮮明にとらえている。

アイドルといえば、かつてはグループに所属せず、オーディション番組から歌唱力などを評価されて発掘されるのが主流であった。しかしながら、現代ではグループに所属していないアイドルはとても希少であり、また元々は特別な才能がない少年少女がアイドルとして成長していくドキュメンタリー番組なども多い。この違いは果たしてどこに起因するのだろうか？また、本の後半ではアイドルの定番曲である“卒業ソング”を例に挙げ、2000~2010年代のアイドルの楽曲の特徴と共通するメッセージを導き出している。

単なる外側から見たアイドルの分析にとどまらない、著者自身が“モノノブ”(ももいろクローバーZのファン)かつ研究者だからこそ編まれた一冊。アイドルファンはもちろん、アイドルにあまりなじみのない方も楽しみながら深い教養を得られるだろう。(高橋)



# チーム石頭（乾・江内谷・五月女・齋藤）

私たちのテーマは「サッカー」です。

先日行われたFIFAワールドカップでは日本代表チームの活躍が人々を大いに盛り上げました。

そんな中で私たちのチームはサッカーというスポーツに焦点を当て、その歴史や社会における役割、スポーツとしての性質、及び遂げてきた発展について、歴史や科学といった側面からの分析を試みます。

ここにある本は、それぞれ違った観点からのサッカーというスポーツの分析に役立ちます。ぜひご一読ください。

## 『東京大学のサッカー 闘魂90年の軌跡』

東大LB会、東京大学運動会ア式蹴球部（東大LB会、2008）

東京大学とサッカーあるいはア式蹴球とは長い関わりがある。

当書によると、日本サッカー協会の創立に関わった新田 純興は、高師付属小学校で初めてサッカーに触れ、1916年に一高に進学し、明治の終わりの野球黄金時代の一高にサッカーゴールを立てる。そして、東京帝国大学に進学する。日本サッカー協会の親と東大はこのように深い関係にある。

大正時代のサッカーには、統一された規則はなくルールは試合都度であった。しかし、新田は本場イギリスのサッカーの規則を翻訳したり、スポーツマンシップ、「紳士のプレー」を重視したりするなど正しい道を求めた。この新田の話のみならずさまざまな東大生とサッカーとのエピソードや勝敗が描かれている。

大正から現代に至るまで、東大生はどうサッカーと向き合ってきたのか。運動会の「ア式蹴球」という呼称の意味は何か。身近な問いがこの本を開く。

文責：乾

# 『スポーツの歴史』

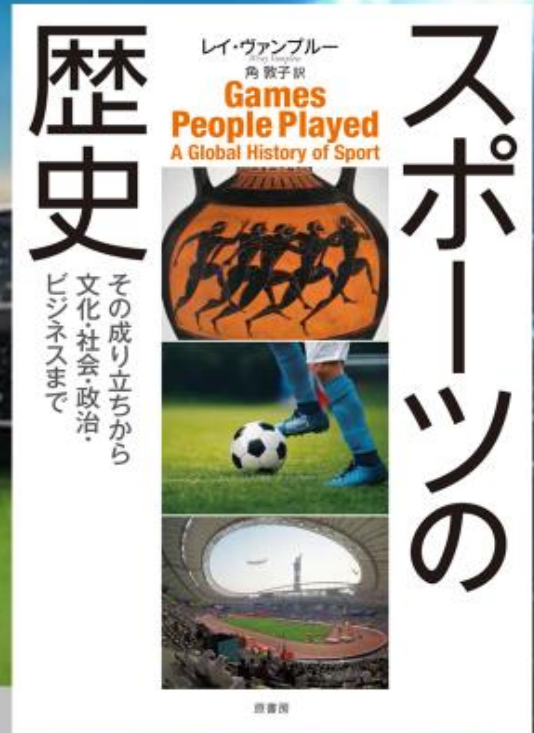
レイ・ヴァンプルー（原書房、2022）

サッカーはプレーすることも観戦することも非常に人気のあるスポーツです。

しかしそのビジネス的な側面や社会との関わりといった点に興味を持っている人は少ないのではないのでしょうか。

この本は、多角的な視点からサッカーに限らず様々なスポーツを分析し、スポーツの様々な可能性について考えられる本です。

スポーツについての見識が深まる一冊です。  
文責：江内谷



# 『サッカーの歴史』

アルフレッド・ヴァール（創元社、2002）

2022年FIFAワールドカップにおいて日本はドイツとスペインを破り、ベスト16に輝いた。

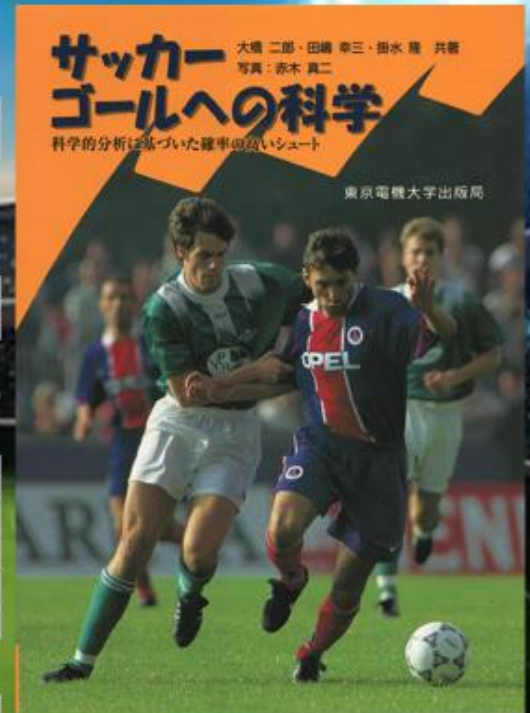
今年の大会ではVARが導入されており、より正確な判定が行われるようになっていた。

現代のサッカーの形になるまでには紆余曲折の歴史的経緯があり、アルフレッド・ヴァール著の『サッカーの歴史』は近代サッカーの変遷を詳細に紹介している。

文責：五月女

# 『サッカー ゴールへの科学』

大橋二郎・田嶋幸三・掛水隆 共著（東京電機大学出版局、1997）



サッカーの試合で勝つために最も重要なことは何でしょうか。

様々な考え方がありますが、点を取ることは欠かせないでしょう。

この本は、ゴールやシュートシーンの豊富な分析データをもとに、「いかに効率よく得点を奪うか」という視点から有効な攻撃や練習方法を示しています。

文責：齋藤



# トリックアート

## ～科学と芸術の側面から考えてみよう～

みなさんはトリックアートはお好きですか？

現実とはちがうものが見えたり、逆に見えるはずのものが見えなかったり、あっと驚かされることが多いのではないのでしょうか。

それだけではありません。トリックアートは私たちに鋭い洞察力と、広い視野をもたらしてくれるのです。平凡な日常を新鮮な視点で捉え直す、良いきっかけを与えてくれます。

今回私たちのグループでは、トリックアートを科学と芸術の二つの側面から考えてみました。

科学の面からは、錯覚が起きる仕組みなどを3冊の本を通じて明らかにします。芸術の面からは、さまざまな画家の絵を通して、錯覚を利用した芸術作品の魅力を知っていただきます。

ぜひ、トリックアートの世界をお楽しみください！（菊地）

麻婆豆腐班 菊地碧香 吉山晴馬 平林優希 桐生有喜

## 『直感を裏切るデザイン・パズル：脳と勝負する』

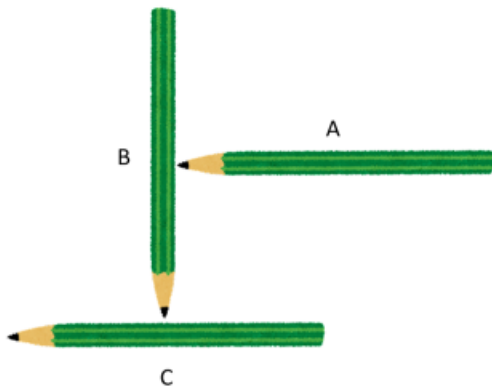
馬場雄二著（2015、講談社）

私たちは普段、実にたくさんものを見ています。起きてから寝るまでの間、視覚情報が途絶えることはほとんどありません。コミュニケーションの80%は視覚によるとも言われ、視覚は言うまでもなく非常に重要な役割を果たしているのです。

ですが、私たちは本当に世界のありのままの姿を見ることができているのでしょうか？視覚は常に正しく情報を伝達するとは限りません。本書ではそんな視覚の不思議に着目した、著者の創作問題や古今東西の錯視の原理、パズルの名作がたくさん紹介されています。普段は信じて疑うことのない視覚ですが、一度この本を覗けばその不思議さにきっと魅了されるはずです。（平林）



## 錯視の不思議を体験しよう



左に三本の鉛筆（A～C）があります。

A, B, Cを長い順に並べると、どのような順番になるでしょうか？

答えは本の中に...！（平林）

(出典) 馬場 雄二（2015）『直感を裏切るデザイン・パズル：脳と勝負する』講談社

## 『「錯視」だまされる脳：なぜこう見える？ どうしてそう見える？』

新井仁之著（2016、ミネルヴァ書房）

錯視とは視覚が起こす錯覚のことを指します。とはいっても、錯視の種類は千差万別。古代建築からファッションやアートまで、錯視はさまざまな場面で活用されているのです。心理学や数学など多面的な視点で研究対象となってきた錯視ですが、近年の研究では錯視が脳のはたらきと関係していることが解き明かされつつあります。

私たちがものを見るときには、目から入ってきた光の情報を脳で処理していますが、この処理の過程で錯視が生じてしまうのです。しかし未だそのメカニズムは多くの謎に包まれています。本書ではそんな錯視の歴史と実際の活用例、さらには科学的な最先端の取り組みが紹介されています。まさに錯視の入門書といえる一冊です。（平林）



## 『数学で探る錯視の世界』

新井仁之（2012、東京大学大学院数理科学研究科）

### 錯視の種類

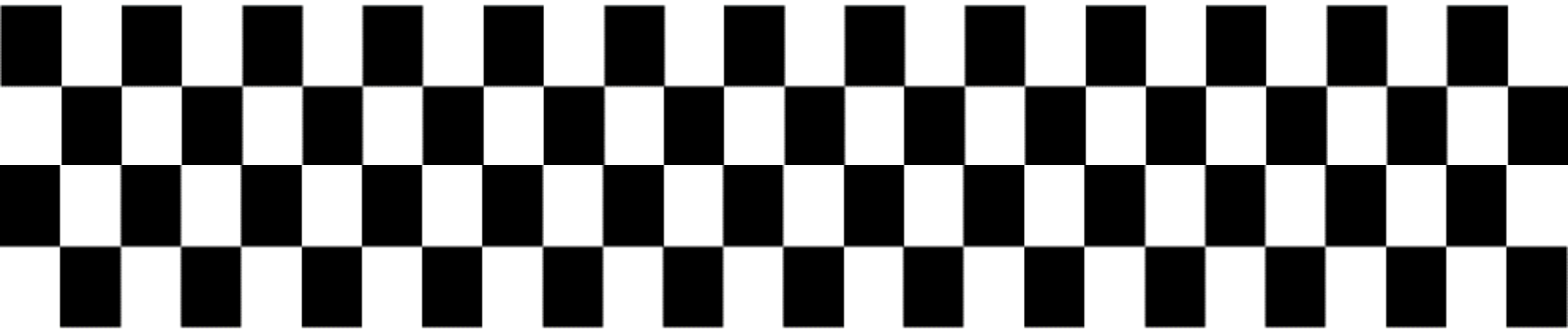
1. 存在しないものが見える錯視
2. 同じ色なのに違って見える錯視
3. 実際の大きさや配置とは異なって見える錯視
4. 静止画が動いて見える錯視
5. 立体視に関する錯視

### 数理視覚科学とは

視覚・視知学のメカニズム解明のために数学を用いる科学の一分野

錯視はそれを把握するために重要な役割を果たす

→画像処理への応用や錯視成分を除去した錯視画を作成（桐生）



## 『錯視芸術の巨匠たち：世界のだまし絵作家20人の傑作集』

アル・セッケル著 坂根巖夫訳（2008、創元社）

錯視芸術は、理解できないもの、存在すら曖昧なものに対して、鋭い洞察力を私たちにもたらしてくれます。だまし絵の鑑賞は、私たちの好奇心を刺激してくれるだけではなく、日常生活への見方をも変えてくれるのです。

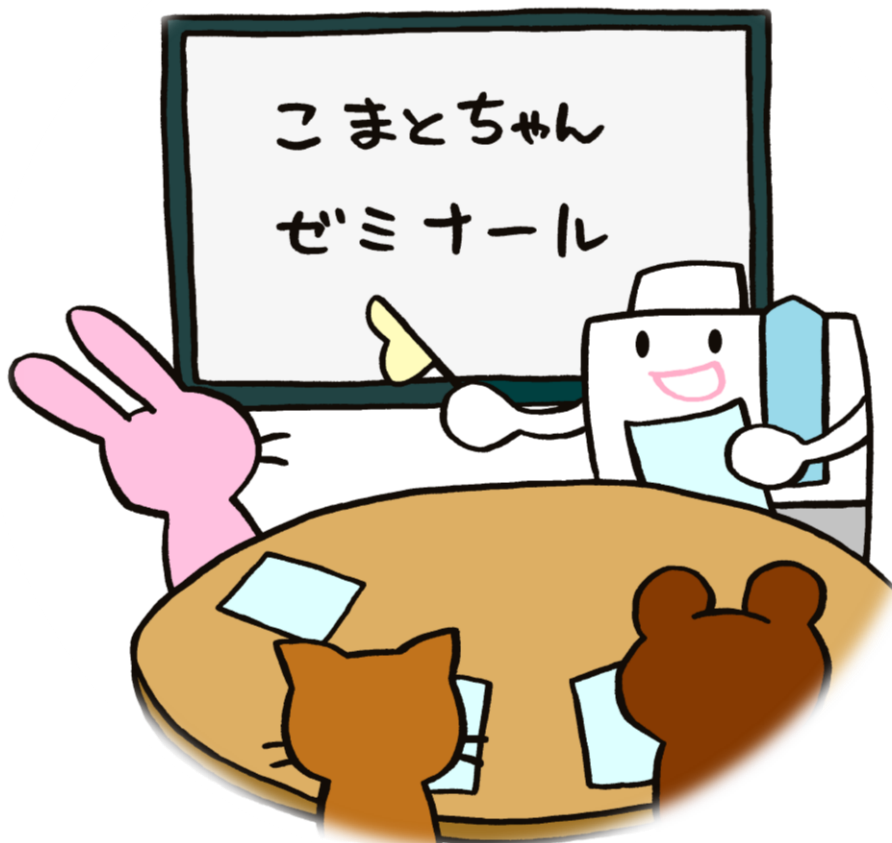
本書では、20人のだまし絵作家に焦点を当て、幅広く作品を紹介しています。例えば、ロブ・ゴンサルヴェスの作品は、遠近法を活用しながら、幻想的で不思議な世界を生み出しています。展示されている本書をご覧ください。みなさんが子供の頃に夢に見ていたような世界が再現されているのではないのでしょうか。本書を通じて、日常生活が彩られて見えるようになるはずです。（菊地）

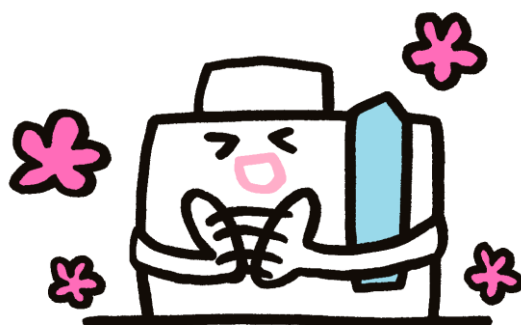
## 『無限を求めて エッシャー、自作を語る』

M・C・エッシャー著 坂根巖夫訳（1994、朝日新聞社）

マルネッツ・コルネリス・エッシャー（1898-1972）は、だまし絵で知られるオランダ人版画家です。滝を流れ落ちた水が水路を下っている……と思いきや水は滝の頂上へと流れ着いている不思議な永久機関の絵や、規則的にスペースを埋める絵柄の黒に注目すれば鳥が、白に注目すれば魚が浮かび上がってくる絵に見覚えはありませんか？

錯視や数学を利用して作り上げられた独自の版画世界は今も愛される一方、エッシャー本人についてはあまり知られていません。彼は自分を芸術家ではなく全身全霊を打ち込む版画家であると語りました。反復や無限といったテーマに取り憑かれ、生涯取り組んだ職人の講演とエッセイです。（吉山）





駒場図書館公式キャラクター  
「こまとちゃん」

東京大学教養学部 主題科目 全学自由研究ゼミナール  
こまとちゃんゼミナール  
～駒場図書館で学ぶ大学生の為の情報検索・収集・発信スキル  
2022年度Aセメスター 成果発表冊子

著者 高橋 雅宏、増田 大輝、佐々木 美奈、飯田 悠貴、乾 将崇、  
江内谷 駿平、五月女 和真、齋藤 巨、菊地 碧香、  
平林 優希、桐生 有喜、吉山 晴馬

編者 山上揚平

発行日 2023年2月1日  
発行 東京大学教養学部 主題科目 全学自由研究ゼミナール  
「こまとちゃんゼミナール」

発行所 〒153-8902 東京都目黒区駒場3-8-1 101号館12室  
東京大学教養学部附属教養教育高度化機構社会連携部門  
TEL 03-5465-8820 FAX 03-5465-8821

